武蔵野市の「市民参加の歴史」を継承する

11.8 open!

環境啓発施設
むさしのエコ re（リ）ゾート

武蔵野市環境部環境政策課
環境啓発施設担当課長
山中 栄

旧クリーンセンター

武蔵野市では、11月8日に環境啓発施設「むさしのエコ re（リ）ゾート」をオープンしました。

「むさしのエコ re ゾート」の建物はごみ焼却施設「クリーンセンター」の建て替えに伴い、旧（初代）クリーンセンター＊のプラットホームと事務所棟の一部を残してリノベーションしました。

＊初代クリーンセンターは、周辺住民の方々のご理解とご協力をいただきながら、32年間にわたり運転を続け、2017年4月からは二代目クリーンセンターが稼働しています。

「むさしのエコ re ゾート」は地球温暖化を踏まえて、ごみをはじめ資源、エネルギー、緑、水循環、生物多様性など、さまざまな環境問題について考え、学び、体験することができる施設です。

展示スペースや、廃材を使ってのものづくりなどが体験できるコーナーのほか、ミニキッチン、パソコンが使え、環境に関する資料・図書が閲覧できるコーナー、カフェスペースなどがあります。

施設概要

建物の外観は、旧クリーンセンターの建物を切断した断面とごみ投入口が特徴的です。（タイトル写真）

「ものづくり工房」は、約1,000㎡ある旧プラットホームの大空間の一部を利用しています。

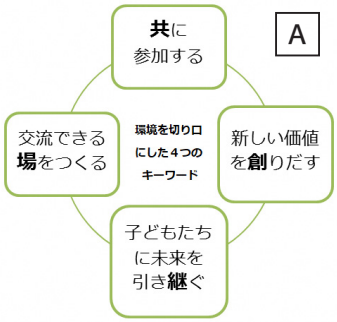
「カフェスペース」にはIHヒーターや水回りを完備。ロールスクリーンもあり、講座等の開催も可能です。

施設理念

施設のコンセプトは「子どもたちに未来をつなぐエコ re ゾート」。

コンセプトを表す4つのキーワードと5つの基礎となる考え方があります。（図A、B）

A



B

多様な環境に関する啓発	•ごみ、資源、エネルギー、緑、水循環、生物多様性など多様な環境問題が、日々の生活につながっていることを知ってもらい、行動に結び付けられるよう働きかけます。
市民参加・市民提案	•武蔵野市に関係のある人（在住・在勤など）・団体などと一緒に環境について考え、企画し、新しいいろいろな取り組みに広げます。
市民団体・事業者・市など異なる主体の連携	•いろいろな人・団体などが、それぞれの強みや知識を持ち寄って、同じ目的を目指して、環境課題の解決に取り組むよう、つながりを促します。
進化しながら磨く	•常に完成形としないで、時代や価値観、ニーズの変化などに対応しながら、人も施設も学び合い、新しい価値を創り続けます。
クリーンセンターの歴史の継承と連携	•エコプラザ（仮称）の原点は市のごみ問題にあります。新旧クリーンセンター建設の歴史や議論・成果・関わった方々の思いなどを次代に引き継ぎます。

施設の機能は「知る」「学ぶ・学び合う」「はぐくむ・育てる」「つなぐ」「支える」の5つです。（図C）

日々の暮らしの中にある環境問題や環境の大切さに気づくように働きかけ、気づきを環境に配慮した行動へと結びつけます。一人ひ

C

知る	•科学的知見や社会動向なども含めた、環境に関係するいろいろな情報を集め、体系的に発信します。
学ぶ・学び合う	•持続可能な社会に何が大切なのか理解してもらえるような展示、参加したくなるイベント、体感し探究できるプログラムを展開します。
はぐくむ・育てる	•小さなころから環境に親しみ、小さな関心を大きくはぐくめるよう、気軽に来られる場を提供します。 •環境に関する活動の立ち上げや継続に必要な知識やノウハウを提供します。
つなぐ	•環境を切り口に、分野を超えて、様々な人と人・活動と活動が出会い、新たなつながりが得られるような仕掛けをつくります。 •世代間交流の機会をつくります。
支える	•環境に関する「なぜ」を受け止め、助言したり、活動につなげたりします。 •環境活動に取り組む際の課題を解決するために支援します。

とりの行動を地域ぐるみの取り組みへと広げ、さらには市全域へと拡大し、持続可能なより良いまちづくりを目指します。また、これらを目指すことで、環境分野の側面から SDGs（持続可能な開発目標）の達成にも貢献していきます。

施設名称、ロゴマーク、キャラクター

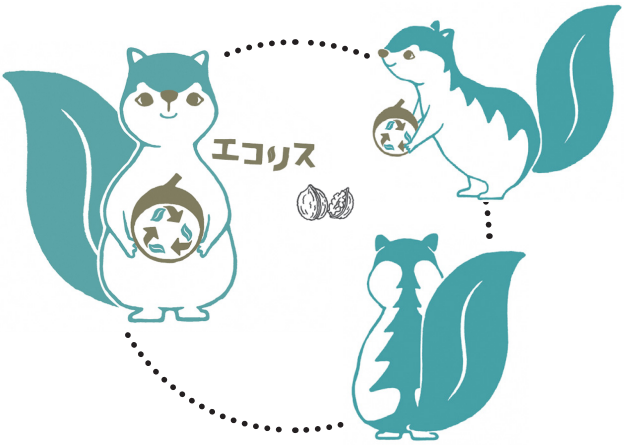
「むさしのエコ re ゾート」の名称は、市民参加のネーミングワークショップで提案されました。

再びを意味する「re」とフランス語で「出かける」の意の「sortir（ソルティール）」の略「sort（ソート）」が合わさった「リゾート」は、「何度も通う場所」を意味しています。

また、「resort to ～」で「最後の手段として～に訴える」という意味になることから、「一つの木が育って雑木林のようになり、何回も訪れたくなる、あたたかい感じのする集まれる場所。危機的な環境を守る最後の砦」という趣旨で提案され、地名の「むさしの」と「エコ」を加えて決定しました。

ロゴマーク は風に吹かれて廻り、循環する葉っぱとリサイクルマークをモチーフとして、気持ちも新たに循環されるような、ゆったりとしたロゴマークです。

キャラクターのエコリスは、武蔵野市の特徴の緑を守るリス。「むさしのエコ re ゾート」の隣にあるどんぐり広場に住む設定で、トレードマークは大きな葉っぱのしっぽと背中の木の模様、手には緑あふれる持続可能な武蔵野市の未来が詰まった種「エコの実」を持っています。市民の皆さんの公募で名前が決定しました。



市民参加型施設

新しいクリーンセンターが稼働するまでの 30 年以上もの間、市民生活に欠かせないごみ処理を担ってきた旧クリーンセンターは、近隣住民の方々と市とが長年にわたり議論を積み重ねて実現した、武蔵野市の市民参加の象徴ともいえる施設です。

その建物を利用した「むさしのエコ re ゾート」では、旧クリーンセンター建設にかかる市民参加の歴史を継承し、市民や市民団体、事業者、関係機関、市などの多くの主体が参加する会議を立ち上げ、運営や活用方法、実際に行うプログラムなどについて、一緒に検討を進めています。

また、環境啓発の担い手・主体として継続的に活躍できる人材を支援する事業として「環境の学校 連続講座」や、学生たちが効果的な情報発信について検討し、実際に広報ツールを制作する「環境の学校 PR プロジェクト」など、市民参加の機会を提供しています。

今後は、施設運営の補助や環境啓発事業の企画・運営などで活躍する登録サポーター制度を導入し、さらなる市民参加・市民参画を進めます。

「むさしのエコ re ゾート」には、時代や価値観、ニーズの変化などに対応しながら、人も施設も学び合い、みんなで一緒に新しい価値を創り続ける「進化しながら磨く」という考え方があります。

コロナ禍での開館には、さまざまな制約がありましたが、コロナ禍の今だからこそ、新しい生活様式に対応した、新しい環境啓発の手法を取り入れることもできます。小さく生んだ施設ですが、多様な主体と一丸となって、徐々に機能を広げていって、大きくのびのびと育てていきたいと思います。

利用案内

開館時間：午前 9 時 30 分から午後 5 時
休館日：火曜日、祝日（月曜日が祝日の場合は月曜日開館、水曜日休館）、年末年始
所 在 地：〒 180-0012　武蔵野市緑町 3 -1-5
e - mail：ecoresort@city.musashino.lg.jp
問合せ先：武蔵野市環境部 環境政策課
環境啓発施設係（むさしのエコ re ゾート内）
電話：0422-60-1945　FAX：0422-51-5590
ホームページ：https://musashino-ecoresort.com
Facebook：
https //www.facebook.com/musashino.eco.resort/